

【東京ニューシティ管弦楽団】

音楽監督・常任指揮者……………内藤 彰
 アドミニストレイティブ・ディレクター……………渡部 中子
 コンサートマスター……………藤田 めぐみ
 インスペクター……………金岡 秀典、山川 奈緒子
 ライブラリアン……………上村 雅英
 プロデューサー……………小坂井 司
 事務局……………渡辺 晶子、鈴木 光子、多田 圭介、鈴木 亨



Violins ◎藤田 めぐみ ○上原 まさみ 犬飼 素子 井上 直子 大津 千代子 大貫 聖子 小澤 薫 海保 あけみ 栗原 りか 小林 清美 齊田 真紀 迫田 信子 菅野 志帆 鈴木 順子 田中 大輔 綱木 郁 徳井 えま 富山 ゆりえ 中村 朱見 山江 洋子 吉井 孝子	高瀬 有美 竹鼻 江美子 堀江 冬子 松田 美奈子 光行 澄子 Violoncellos ○齋藤 章一 渥見 光太郎 大島 純 葛西 英一 鈴木 和生 仙石 由紀子 富成 倫子 橋本 しのぶ Double basses ○河原田 潤 青山 幸成 石川 仁 中村 勇一 若林 昭 Flutes 井ノ上 洋 内山 豊美	Oboes 徳田 振作 川内 優子 Clarinets 三倉 麻実 松元 香 Saxophone 工藤 俊一 Bassoons 藤田 旬 齋藤 美和子 Horns 小川 正毅 源 真理 森 雅彦 上村 雅英 Trumpets 中西 清一 奥野 儀光 小林 史尚	Trombones 竹田 年志 福井 実織 Bass Trombone 篠崎 卓美 Tuba 山岸 明彦 Timpani 米山 明 Percussion 平子 久江 石澤 学 堀尾 愛 Harps 平山 菜津子 木村 彩 Stage manager 多田 圭介
--	---	--	--

Agnes Baltsa ~Recital2001~

アグネス・バルツァ

オペラ・アリアを歌う

東京ニューシティ管弦楽団 第22回定期演奏会

東京ニューシティ管弦楽団 2001～2002 年定期演奏会
 音楽監督・常任指揮者 内藤 彰

第23回定期演奏会

2001年11月21日(水) 7:00pm 東京芸術劇場大ホール

指揮 内藤彰

ピアノ 稲田潤子 (97年ラフマニノフ国際コンクール・モスクワ第3位)

ラフマニノフ 「ヴォカリーズ」 作品34-14

ラフマニノフ ピアノ協奏曲第3番 二短調 作品30

シューマン 交響曲第3番 変ホ長調 作品97「ライン」

【料金】S¥6,000 A¥4,500 B¥3,000

第24回定期演奏会

2002年2月14日(木) 7:00pm 東京芸術劇場大ホール

指揮 アレッサンドロ・ヴィティエッロ

メゾソプラノ ダニエラ・バルチェッローナ

「セビリヤの理髪師」より

「シンデレラ」より

「タンクレディ」より 他

2001年9月25日(火) 19:00開演

東京芸術劇場

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 1-31-13 ライオンズマンション東池袋第3-805

東京ニューシティ管弦楽団

TEL:03-5952-7617 FAX:03-5952-7618 <http://www2.plala.or.jp/newcity/>

~PROGRAM~

- ロッシーニ 『セビリヤの理髪師』序曲
『アルジェのイタリア女』より
第1幕 イザベッラのアリア「むごい運命よ」
ROSSINI: **IL BARBIERE DI SEVIGLIA** Overture ~ **L'ITALIANA IN ALGERI** „Cruda sorte“, Aria of Isabella
- マスネ 『ウェルテル』前奏曲
『ウェルテル』より
第3幕 シャルロットのアリア「いいの、泣くままにしておいて」
MASSNET: **WERTHER** Overture ~ „Va! Laisse couler mes larmes“, Aria of Charlotte
- マイアベーア 『予言者』より
第2幕 フィデスのアリア「ああわが子よ」
MEYERBEER: **LE PROPHETE** „Ah, mon fils!“
- ビゼー 『カルメン』第3幕への前奏曲
『カルメン』より
第3幕 カードのアリア「何度やっても同じこと」
BIZET: **CARMEN** Intermezzo (3rd act) ~ „Carreau, pique la mort“, Card-Aria
- ベルリオーズ 序曲『ローマの謝肉祭』
『トロヤの人びと』より
第5幕 デイドーンのモノローグとアリア「ああ！私は死のう」
BERLIOZ: Overture **LE CARNAVAL ROMAIN ~ LES TROYENS** „Je vais mourir“, monologue and aria of Dido

***** 休憩 *intermission* *****

- ヴェルディ 『運命の力』序曲
『ドン・カルロ』より
第2幕 エーポリ姫のヴェールの歌「美しいサラセンのお城の庭」
VERDI: **LA FORZA DEL DESTINO** Overture ~ **DON CARLO** „Nei giardin del bello“, veil-song of Eboli
- ベッリーニ 『カプレーティとモンテッキ』序曲
『カプレーティとモンテッキ』より
第2幕 ロメオのアリア「汝、おお私のジュリエッタ」
BELLINI: **I CAPULETI E I MONTECCHI** Overture ~ „Tu sola, o mia Giulietta“, Aria of Romeo
- マスカーニ 『カヴァレリア・ルスティカーナ』間奏曲
『カヴァレリア・ルスティカーナ』より
サントウツァのアリア「ママも知る通り」
MASCAGNI: **CAVALLERIA RUSTICANA** Intermezzo ~ „Voi lo sapete“, romance and scene of Santuzza

PROFILES

アグネス・バルツァ Agnes Baltsa



ギリシャのレフカス島生まれ。アテネ音楽院卒業の際に「マリア・カラス奨学金」を獲得してミュンヘンに留学、1968年に『フィガロ』のケルビーノをフランクフルトで歌ってオペラ・デビューを飾った。

70年には『ばらの騎士』で、ウィーン国立歌劇場における史上最年少のオクタヴィアン役として出演、その直後よりベルリン・ドイツ・オペラ、メトロポリタン歌劇場、バイエルン国立歌劇場、コヴェント・ガーデン、パリ・オペラ座など世界各国の主要歌劇場に登場し、ベーム、バーンスタイン、ムーティ、小澤、アバドなどと共演。ことにカラヤンには「現代最高のドラマティック・メゾ・ソプラノ」と絶賛され、ザルツブルク音楽祭には毎年招かれるスターとなった。

その後モーツァルト、ロッシーニ、R.シュトラウス、ヴェルディさらにベッリーニやドニゼッティなどあらゆるメゾ・ソプラノの役に挑み、異なるスタイルながらそれぞれに見事な造形を見せたが、なんとと言っても『カルメン』における解釈と演技、完璧な歌唱は強烈な印象を与え、「カルメン歌手」の長い系譜に新たな1ページを加えることとなった。

99/2000年のシーズンでは『カルメン』はもちろん、久々となるオルロフスキー公爵（『こうもり』）、バルトリとの共演が話題となったデスピーナ（『コジ・ファン・トゥッテ』）役のほか、『フェドラー』、『エロディアーアード』など新たなレパートリーにも取り組む。また今シーズンは3月にマドリッドのテアトル・レアルでこれも初のクンドリー役（『パルジファル』）を歌ってドミンゴと共演、圧倒的な存在感を示した。

2002年のウィーン国立歌劇場では『イエスーファ』、『アルジェのイタリア女』、『カルメン』などの舞台に立つ予定で、至高にして今日もなお、新たな境地を開きつづけている。88年よりウィーン国立歌劇場名誉会員、93年よりヨーロッパ芸術科学アカデミー会員。



内藤 彰(指揮) Akira Naito

名古屋大学理学部卒業。在学中より指揮を山田一雄氏に師事する。桐朋学園大学研究科（指揮専攻）にて、小澤征爾氏、秋山和慶氏、尾高忠明氏ほかに師事し、修了後(社)山形交響楽団の専属指揮者を3年間務める。これまでに新日本フィル、東フィル、東響、新星日響、シティ・フィル、名フィル他、日本の多くの主要オーケストラを指揮、シンフォニーはもちろん、オペラ・バレエの分野でも、その音楽性とテクニックは聴衆の共感と共演者の絶大な信頼を得ている。海外では、1991年旧ユーゴスラヴィアを代表するベオグラードフィルハーモニーを指揮し好評を博した。その後92年にモスクワ音楽院大ホールにてモスクワ交響楽団、96年5月にはロシアの国立ヴァロネシエ歌劇場にて「セヴィリアの理髪師」を指揮。97年5月には、ベラルーシ国立歌劇場にて「蝶々夫人」を指揮し、その成功により、今後も同歌劇場から定期的な客演が要請されている。今年、3月にサンクトペテルブルク響を指揮、12月には北ハンガリー響他の客演指揮が予定されている。

現在、東京ニューシティ管弦楽団、及びプロ混声合唱団「東京合唱協会」音楽監督・常任指揮者。日本指揮者協会幹事。今秋よりロシア国立ウリヤノフスクフィルハーモニー首席客演指揮者に就任。

東京ニューシティ管弦楽団 Tokyo New City Orchestra

1990年、音楽監督・常任指揮者に内藤彰を擁し設立された。定期演奏会のほか、名曲コンサート、協奏曲・オペラ・バレエの伴奏、レコーディングなど幅広く活躍。特に、オペラの分野では評価が高く、二期会、藤原歌劇団の他、レナータ・スコット、アルフレード・クラウス、ヘルマン・プライ、カーティア・リッチャレツリ、マリエッラ・デヴィーア、マリア・キアラ、渡辺葉子等世界で活躍するオペラ歌手との共演も数多い。また、一切の無駄を省いた新しいオーケストラの運営方針もユニークな発展を見せ、近年その活動が各方面から注目されている。

2000年度より定期演奏会を年間5回に増やし、東京第9番目のオーケストラとして、今後の活躍が益々期待されている。